

# 平成 23 年度河川環境研究所研究成果発表会の開催について

平素は、当研究所の運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年度の研究成果発表会を下記のとおり開催しますので、ご多用中とは存じますが、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、準備の都合からご出席いただける方の氏名を把握したいので、別紙 1により平成 24 年 1 月 16 日（月）までにご連絡（FAX、E-mail 可）くださいますようお願いいたします。

## 記

### 1 日時及び場所

#### 【各務原会場】

平成 24 年 2 月 7 日（火） 13：00～15：55（受付 12：30～）  
岐阜県健康科学センター内 「ハイビジョンシアター」  
（各務原市那加不動丘 1-1）

#### 【下呂会場】

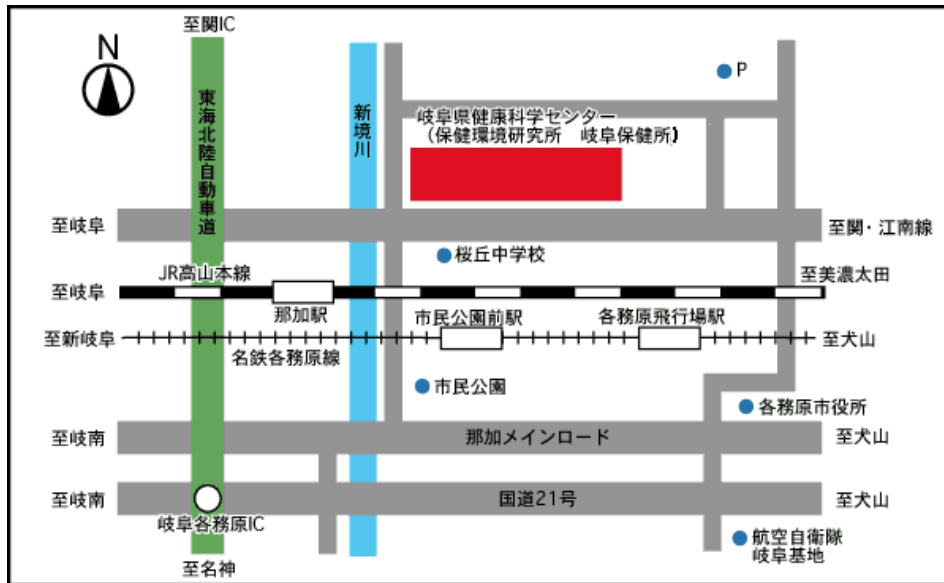
平成 24 年 2 月 9 日（木） 13：00～15：55（受付 12：30～）  
下呂総合庁舎 5F 「大会議室」  
（下呂市萩原町羽根 2605-1）

### 2 内 容 別紙 2 のとおり

- 3 その他 各務原会場（7 日）と下呂会場（9 日）の発表内容は若干異なります。  
ご都合のよい会場へご出席ください。

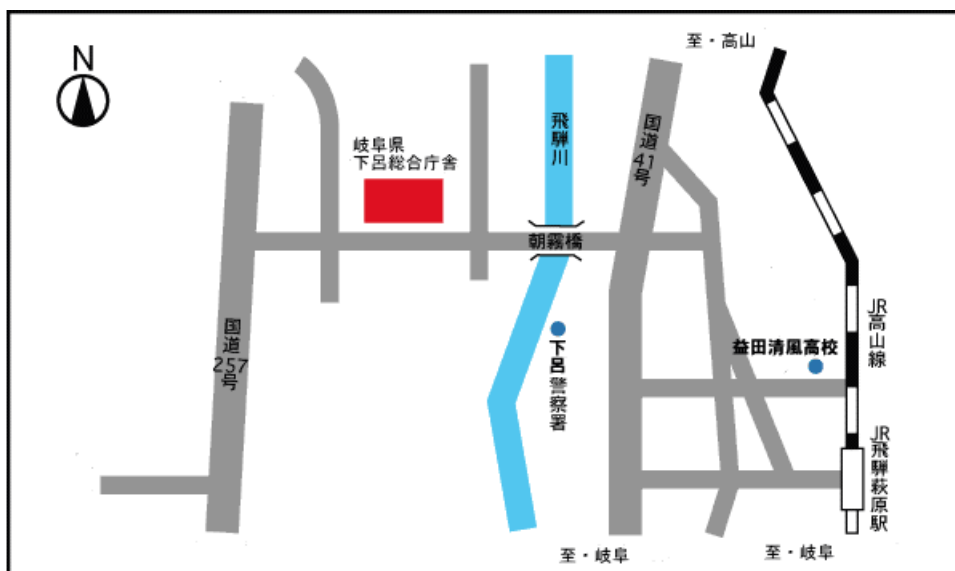
河川環境研究所	
担当	松永・ <u>松田</u>
電話番号	0586-89-6351, <u>6352</u>
F A X	0586-89-6365
E-mail	c24101@pref.gifu.lg.jp

各務原会場 岐阜県健康科学センター案内図



- 公共交通機関ご利用の場合
  - J R 高山本線那加駅から徒歩約 20 分
  - 名鉄各務原線各務原飛行場前から徒歩約 15 分
  - 名鉄各務原線市民公園前駅から徒歩約 15 分
  - 岐阜バス岐阜各務原線不動丘町バス停から徒歩約 3 分
- 車をご利用の場合
  - 東海北陸自動車道岐阜各務原 I C から車で約 10 分
  - \* 駐車場 165 台 (身体障害者用駐車スペース有)

下呂会場 下呂総合庁舎案内図



- 公共交通機関ご利用の場合
  - J R 高山本線萩原駅から徒歩約 15 分
- 車をご利用の場合
  - 国道 41 号 J R 下呂駅から北進約 15 分
  - 国道 41 号 J R 高山駅から南進約 50 分
  - 関 I C から関～金山線約 1 時間 30 分
  - 中津川 I C から国道 257 号～41 号約 1 時間 10 分



各務原会場(平成24年2月7日)

平成23年度 岐阜県河川環境研究所 研究成果発表会 プログラム

人と魚が共存する豊かな水域環境の創出と水産業の振興

岐阜県は、古くから飛山濃水の地と呼ばれ、美しい山々が連なる自然と木曾三川を中心とする豊かな水環境に恵まれ、また、そこに生息する数多くの生物から様々な恩恵を受けてきました。

このような背景を踏まえ、当研究所では、県内の河川を中心とする水域環境とそこに生息する魚類などの保全、また、水産有用魚種などの増殖と有効利用を図るため、「人と魚が共存する豊かな水域環境の創出と水産業の振興」を基本目標に、様々な研究に取り組んでいます。

今年度は、アユの漁獲量の多少を大きく左右する天然遡上アユの遡上量予測に関する研究、新魚種として期待の大きいナマズの養殖研究などについて発表します。

○開会あいさつ(13:00～13:10)

○発表(13:10～15:55)

13:10-13:15	(研究概要説明)	資源増殖部長
13:15-13:35	長良川のアユの遡上量予測	資源増殖部 桑田 知宣
13:35-13:55	冷水病に強いアユ種苗の養殖実用化研究Ⅱ	資源増殖部 荻谷 哲治
13:55-14:15	判別技術を用いたアユ放流種苗の評価	資源増殖部 武藤 義範
14:15-14:25	【休憩】	
14:25-14:30	(研究概要説明)	生態環境部長
14:30-14:50	ウシモツゴの野生復帰	生態環境部 松田 宏典
14:50-15:10	養殖ナマズの安定供給システムの開発	生態環境部 米倉 竜次
15:10-15:15	(研究概要説明)	下呂支所長
15:15-15:35	アマゴのスモルトとパーにおける摂餌特性の違い	下呂支所 徳原 哲也
15:35-15:55	サケ科魚類の卵の一時的な付着性	下呂支所 岸 大弼

※内容、発表順序等が変更される場合もございます。  
あらかじめご了承ください。

下呂会場(平成24年2月9日)

平成23年度 岐阜県河川環境研究所 研究成果発表会 プログラム

人と魚が共存する豊かな水域環境の創出と水産業の振興

岐阜県は、古くから飛山濃水の地と呼ばれ、美しい山々が連なる自然と木曾三川を中心とする豊かな水環境に恵まれ、また、そこに生息する数多くの生物から様々な恩恵を受けてきました。

このような背景を踏まえ、当研究所では、県内の河川を中心とする水域環境とそこに生息する魚類などの保全、また、水産有用魚種などの増殖と有効利用を図るため、「人と魚が共存する豊かな水域環境の創出と水産業の振興」を基本目標に、様々な研究に取り組んでいます。

今年度は、アユの漁獲量の多少を大きく左右する天然遡上アユの遡上量予測に関する研究、新魚種として期待の大きいカジカ、ナマズの養殖研究などについて発表します。

○開会あいさつ (13:00~13:10)

○発表 (13:10~15:55)

13:10-13:15	(研究概要説明)	資源増殖部長
13:15-13:35	長良川のアユの遡上量予測	資源増殖部 桑田 知宣
13:35-13:55	冷水病に強いアユ種苗の養殖実用化研究Ⅱ	資源増殖部 苅谷 哲治
13:55-14:15	判別技術を用いたアユ放流種苗の評価	資源増殖部 武藤 義範
14:15-14:25	【 休 憩 】	
14:25-14:30	(研究概要説明)	生態環境部長
14:30-14:50	養殖ナマズの安定供給システムの開発	生態環境部 米倉 竜次
14:50-14:55	(研究概要説明)	下呂支所長
14:55-15:15	アマゴのスモルトとパーにおける摂餌特性の違い	下呂支所 徳原 哲也
15:15-15:35	カジカ養殖における配合飼料の種類と成長	下呂支所 藤井 亮吏
15:35-15:55	サケ科魚類の卵の一時的な付着性	下呂支所 岸 大弼

※内容、発表順序等が変更される場合もございます。  
あらかじめご了承ください。